

## 前普及計画(H27-30)

新規需要米の利活用推進

稲WCSの伸び率が低い

定着に向けて総合的な取組必要

個別経営体への支援

多様な関係者との連携の必要性

子牛生産構造の再構築

経験の浅い農家向けマニュアル



個別や集団あるいは地域連携等々、その対応も多様

## 新普及計画(R1-4)

畜産経営体の持続的発展支援

# 畜産経営体の持続的発展支援

## 課題(現状認識)

酪農：初妊牛価格の高騰、輸入粗飼料依存

⇒経営を圧迫、乳牛更新停滞、粗飼料安否不安定

肉牛：肥育素牛価格の高騰

⇒三重県は繁殖基盤が脆弱、経営を圧迫、飼養頭数削減

養豚：飼料価格の高騰

⇒販売の強みがある経営体が多い、生産コスト低減が困難

養鶏：鶏ふん堆肥の流通不全

⇒他の畜種より生産堆肥の流通に苦慮

# 普及活動成果指標

指標項目	単位	現状 (2018年度)	→	目標 (2022年度)
(ア)稲WCS利用数量	口一ル	16,758	→	19,300
(イ)子牛生産の新たな仕組み作り支援数	件	—	→	3
(ウ)肉用子牛生産頭数	頭	1,944	→	2,400
(エ)未利用資源新規利用農家数(豚)	戸	—	→	4
(オ)生産堆肥の高付加価値化新規取組農家数(鶏)	戸	—	→	4

# 活動方針

酪農・肉牛

(1) 耕畜連携による県内産自給飼料の生産利用拡大  
→ 利用農家数の拡大、給与量の拡大

酪農

飼料特性を考慮した収穫調製方法の提案・指導  
通年給与や個体給与量増加技術支援  
搾乳ロボット飼養に対応した稲WCS増給支援

肉牛

繁殖農家での利用拡大促進  
肥育農家での新たな利用方法(低カロテン化)の提案



畜産農家サイドの給与技術に重点を置いて活動

# 推進する中で(近年のトピックス)

## たちすずか

農研機構 近畿中国四国農業研究センター(2010年品種登録)



左:クサノホシ 右:たちすずか

### たちすずか の特徴

- 穂が小さい(極短穂)
- 耐倒伏性が強い
- 未消化粗量が少ない(TDNロスが少ない)
- 糖含量が高い
- 繊維消化率が高い
- 茎部消化性が高い
- 長稈多収

導入  
推進

・乳生産への効果  
・保存性の向上

畜産

・収量向上

耕種

# 推進する中で(近年のトピックス)

## 微細断収穫調製



### 微細断WCS の特徴

- ・ 発酵品質が極めて高い
- ・ 牛への給与がしやすい
- ・ 作業効率が高い
- ・ 長稈品種収穫可能

導入  
推進

- ・ 採食性の向上
- ・ 保存性の向上

畜産

- ・ 作業の効率化
- ・ 畜産農家の需要増

耕種

# 一連の技術の体系化

## 極短穂型飼料用稲専用品種



高消化性・高栄養  
長稈、茎葉収量多

# 技術の体系化により相乗効果が得られる



春作業競合回避・省力化  
収穫作業の安定化(田面乾燥)

不耕起V溝乾田直播栽培



長稈対応・作業効率化  
稲WCSの高品質化

微細断収穫調製

# 活動方針

酪農・肉牛

## (2)酪農・肉牛における子牛生産構造の再構築

### 酪農→乳用後継牛の自家生産拡大

初妊牛導入依存が高い酪農家への自家生産の提案  
県全体の後継牛確保について関係機関と課題共有  
性選別精液の活用推進  
搾乳供用年数の延長を目指した飼養管理技術

### 肉牛→肉用和子牛の県内生産・確保拡大

肥育経営での新規の繁殖導入を提案、支援  
新規農家向けの「繁殖育成マニュアル」の作成  
三重県和牛繁殖協議会を通して繁殖農家への支援体制を構築  
伊賀地域のキャトルステーション整備に向けての議論を主導し支援



# 活動方針

養豚・養鶏

## (1) 養豚における飼料コスト削減

- エコフィード、飼料用米の利用拡大
- 三重県エコフィード等利活用研究会
- 新規需要米受付
- 養豚関連のクラスター協議会

## (2) 鶏ふん堆肥の流通改善による利用拡大

- 鶏ふん堆肥の高付加価値化
- 耕種農家サイドでの利用促進
- ペレット化や普通肥料登録
- 飼料用稲栽培農家への鶏ふん堆肥利用提案